

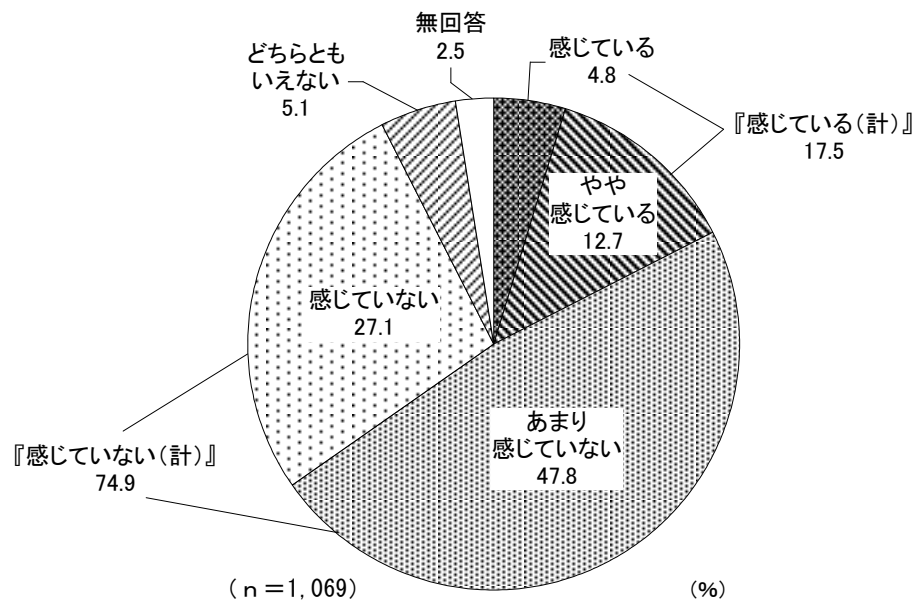
6. スポーツを通じて健康で豊かに暮らせるまち

(1) 東京オリンピック・パラリンピック大会が身近になってきたと感じているか

◇「感じている」と「やや感じている」を合わせた『感じている（計）』は2割近く

問 11 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会の成功に向け、大田区は積極的に事業に取り組んでいますが、大会が身近になってきたと感じていますか。（○は1つだけ）

図 6-1-1

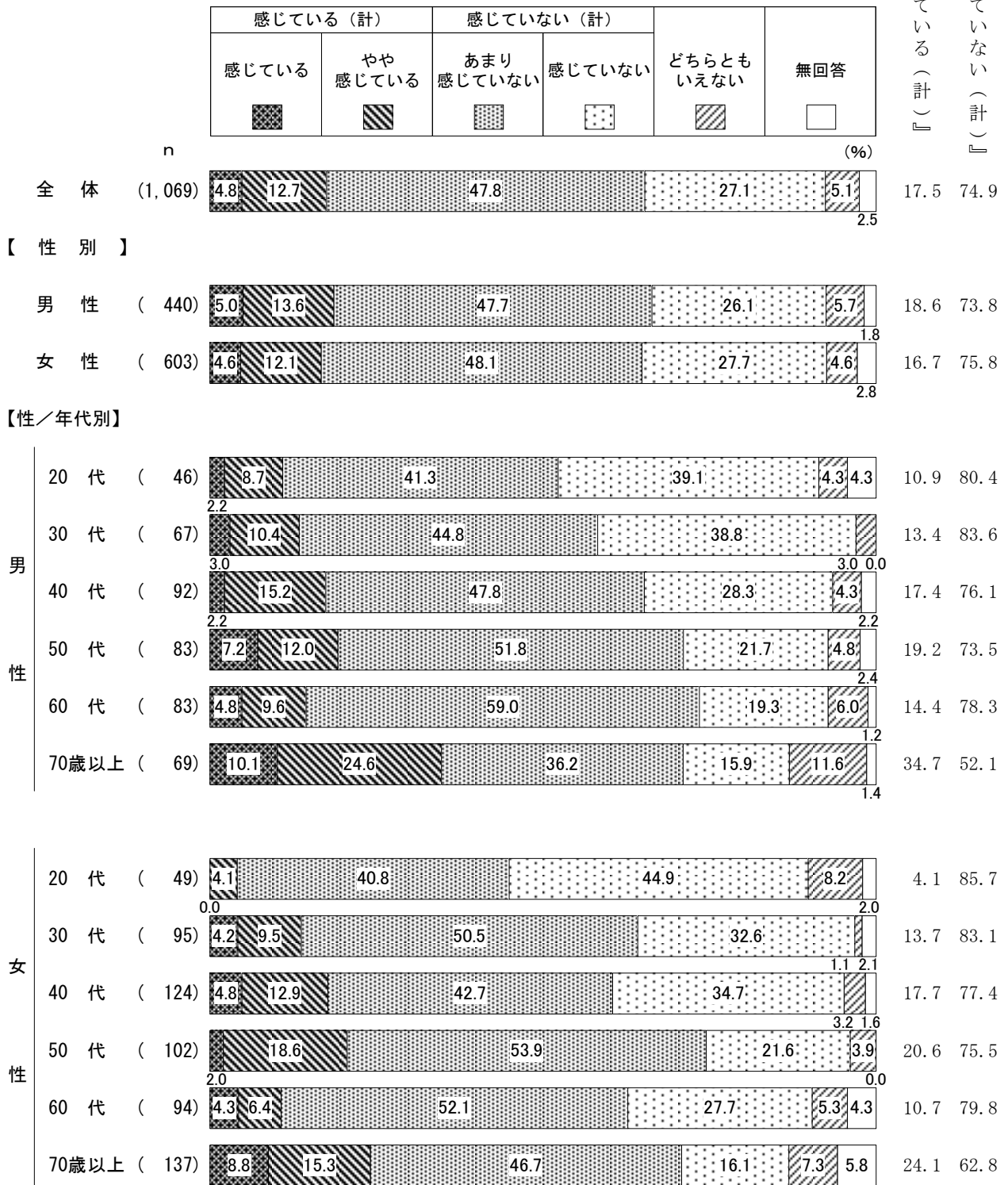


東京オリンピック・パラリンピック大会が身近になってきたと感じているか聞いたところ、「感じている」(4.8%)と「やや感じている」(12.7%)を合わせた『感じている(計)』(17.5%)は2割近くとなっている。一方、「あまり感じていない」(47.8%)と「感じていない」(27.1%)を合わせた『感じていない(計)』(74.9%)は7割半ばとなっている。(図6-1-1)

図6-1-2 東京オリンピック・パラリンピック大会が身近になってきたと感じているか

—性／年代別

『感じている（計）』
『感じていない（計）』



性別でみると、大きな違いはみられない。

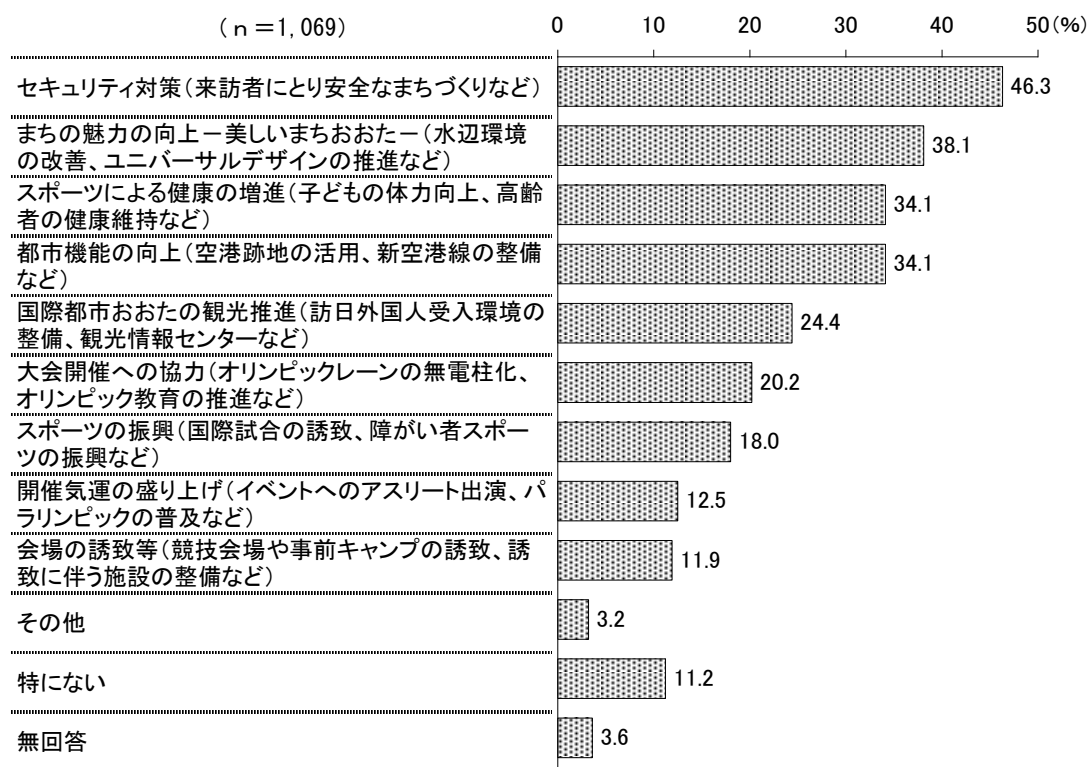
性／年代別でみると、『感じている（計）』は男性70歳以上（34.7%）で3割半ばとなっている。一方、『感じていない（計）』は女性20代（85.7%）で8割半ばと高くなっている。（図6-1-2）

(2) 東京オリンピック・パラリンピック大会に向けて区に期待する取組み

◇「セキュリティ対策（来訪者にとり安全なまちづくりなど）」が4割半ば

問 12 2020 年東京オリンピック・パラリンピック大会に向けて、大田区に期待する取組みを教えてください。（〇はいくつでも）

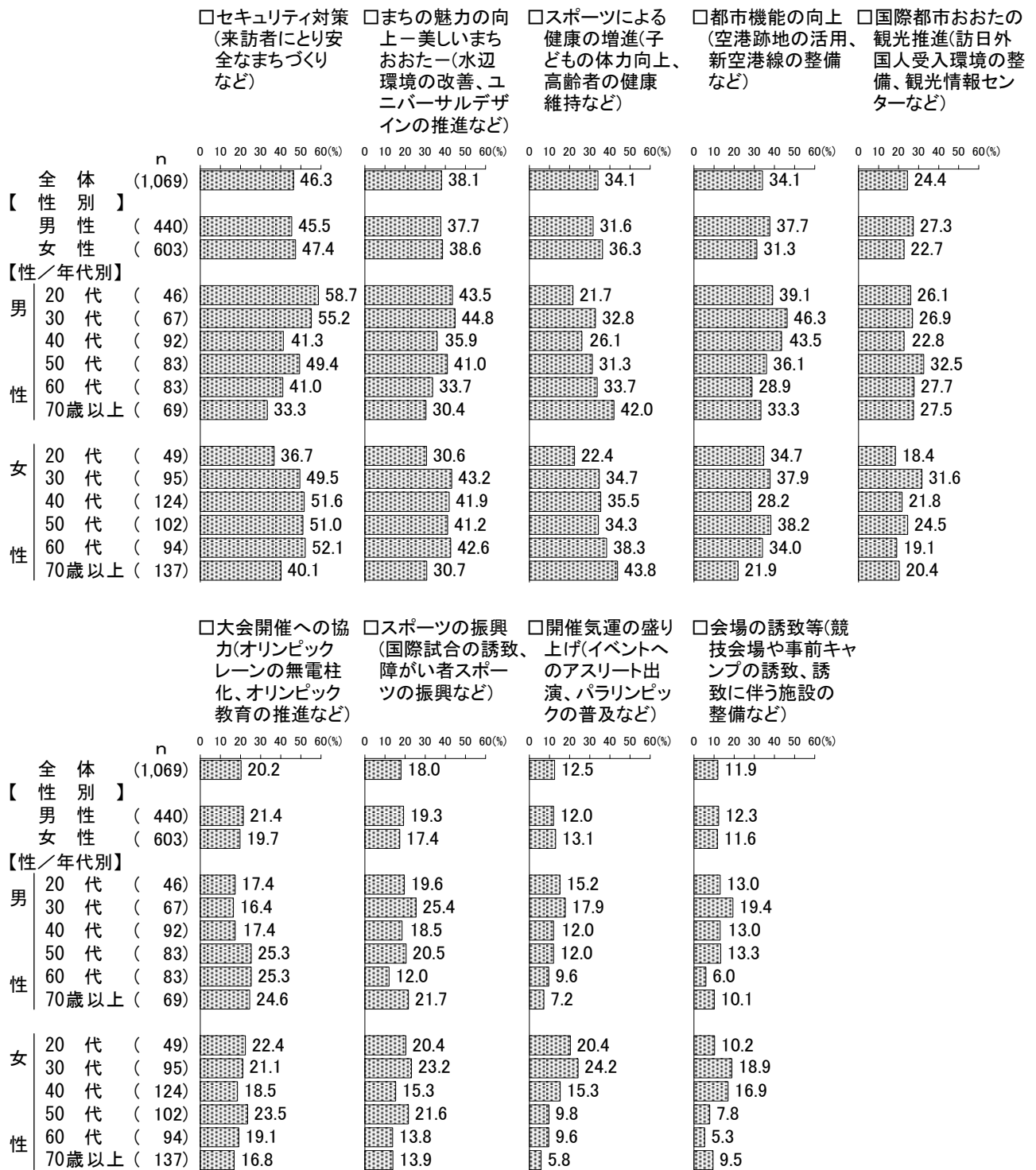
図 6-2-1



2020 年東京オリンピック・パラリンピック大会に向けて、大田区に期待する取組みを聞いたところ、「セキュリティ対策（来訪者にとり安全なまちづくりなど）」（46.3%）が4割半ばで最も高く、次いで「まちの魅力の向上—美しいまち おおた—（水辺環境の改善、ユニバーサルデザインの推進など）」（38.1%）、「スポーツによる健康の増進（子どもの体力向上、高齢者の健康維持など）」と「都市機能の向上(空港跡地の活用、新空港線の整備など）」（ともに 34.1%）などの順になっている。

「その他」への回答として、「ボランティアに参加できるように語学講座の開催」、「交通渋滞対策」などがあげられている。（図 6-2-1）

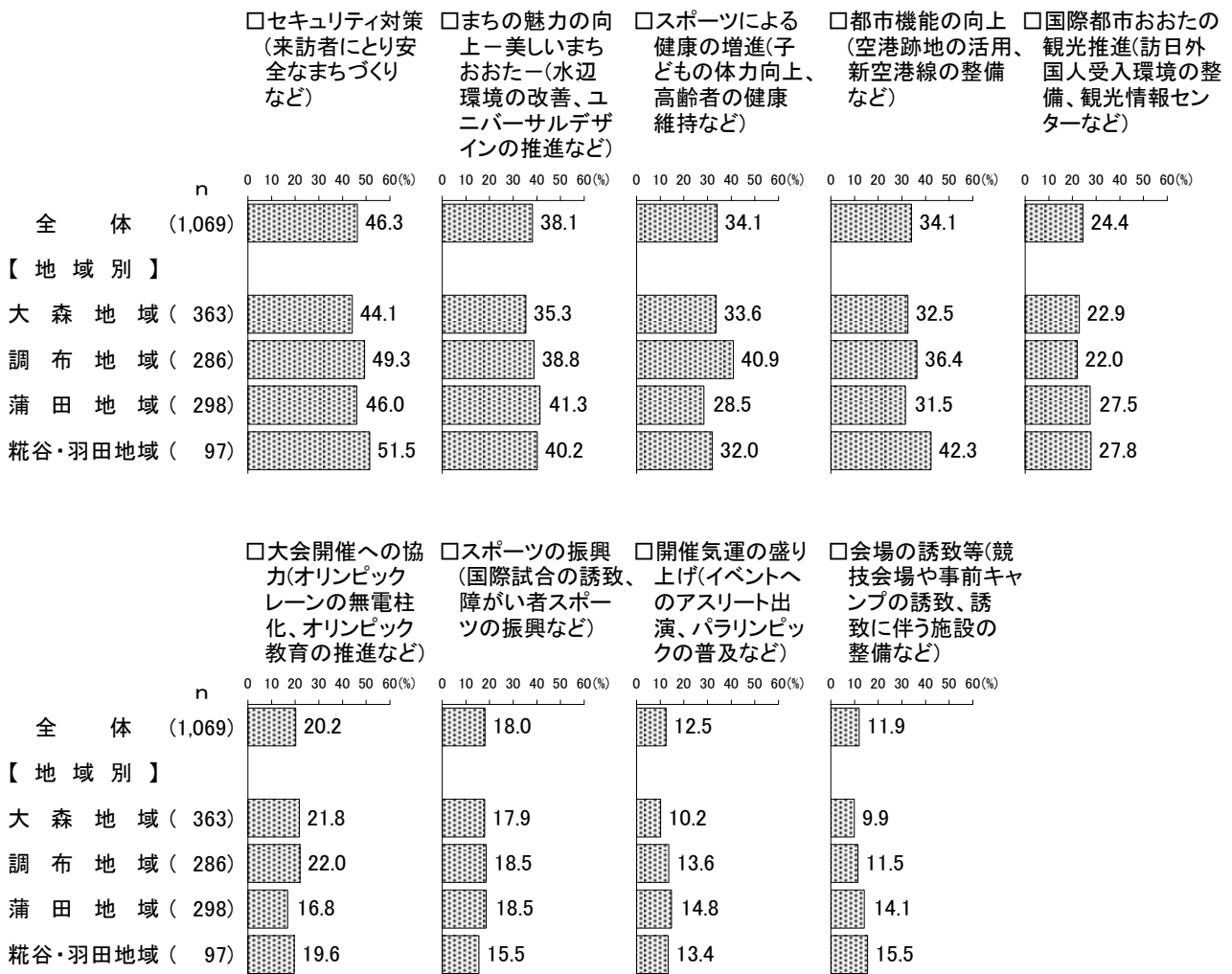
図6-2-2 東京オリンピック・パラリンピック大会に向けて区に期待する取組み—性/年代別



性別でみると、「都市機能の向上(空港跡地の活用、新空港線の整備など)」は男性(37.7%)が女性(31.3%)より6.4ポイント高くなっている。一方、「スポーツによる健康の増進(子どもの体力向上、高齢者の健康維持など)」は女性(36.3%)が男性(31.6%)より4.7ポイント高くなっている。

性/年代別でみると、「セキュリティ対策(来訪者にとり安全なまちづくりなど)」は男性20代(58.7%)で6割近くと高くなっている。また、「都市機能の向上(空港跡地の活用、新空港線の整備など)」は男性30代(46.3%)で4割半ばとなっている。(図6-2-2)

図 6-2-3 東京オリンピック・パラリンピック大会に向けて区に期待する取組み—地域別



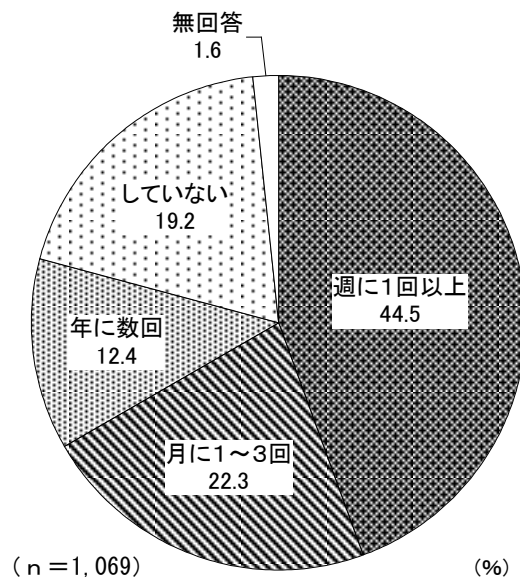
地域別でみると、「セキュリティ対策（来訪者にとり安全なまちづくりなど）」は糀谷・羽田地域（51.5％）で5割を超えている。また、「スポーツによる健康の増進（子どもの体力向上、高齢者の健康維持など）」は調布地域（40.9％）で約4割となり、「都市機能の向上（空港跡地の活用、新空港線の整備など）」は糀谷・羽田地域（42.3％）で4割を超えている。（図 6-2-3）

(3) この1年間の運動・スポーツ活動の頻度

◇「週に1回以上」が4割半ば

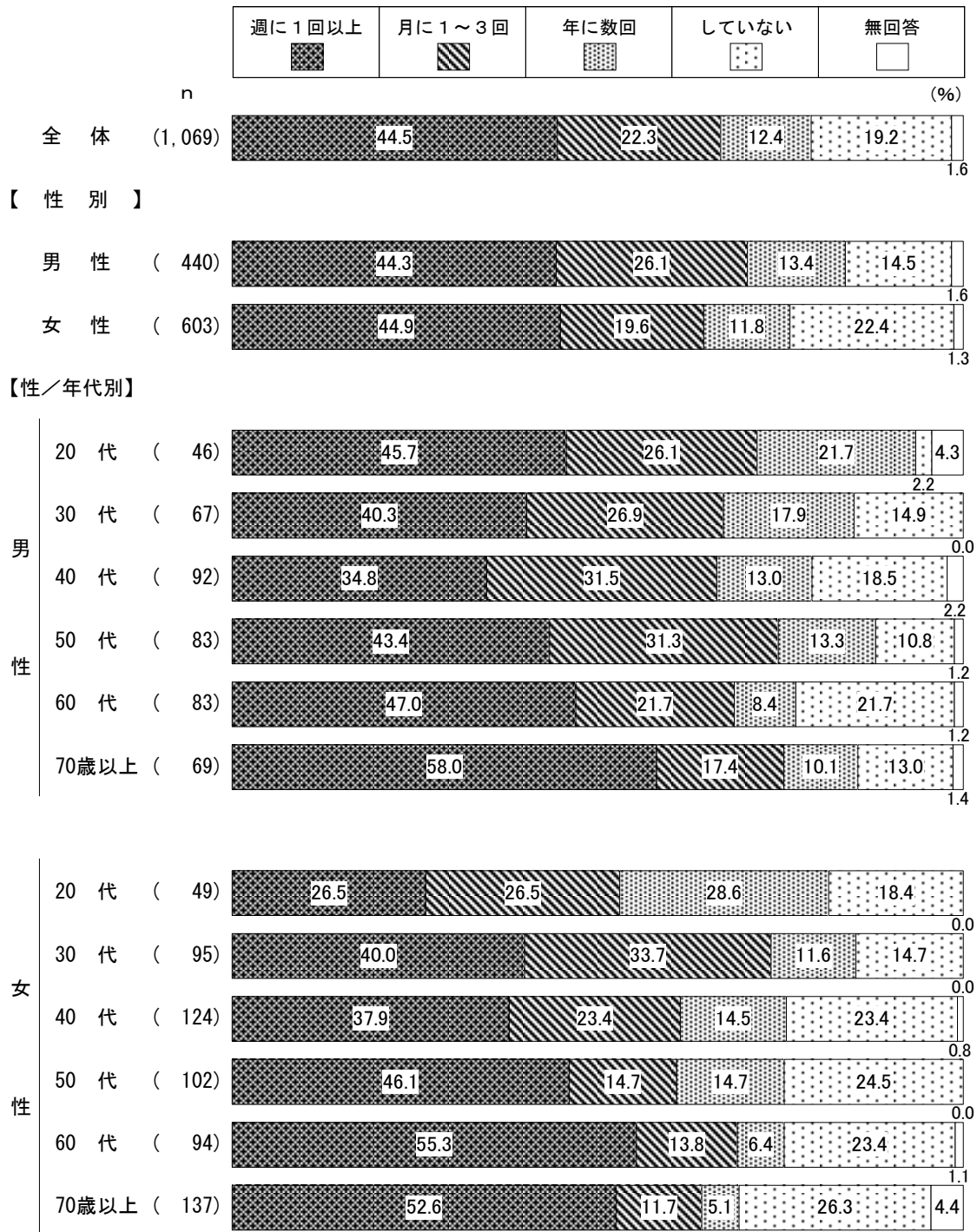
問13 この1年間に、どれくらいの頻度で運動・スポーツ活動をしましたか。
なお、運動には30分程度の散歩なども含みます。(〇は1つだけ)

図6-3-1



この1年間の運動・スポーツ活動の頻度を聞いたところ、「週に1回以上」(44.5%)が4割半ばで最も高く、次いで「月に1~3回」(22.3%)、「年に数回」(12.4%)となっている。一方、「していない」(19.2%)は約2割となっている。(図6-3-1)

図6-3-2 この1年間の運動・スポーツ活動の頻度－性／年代別



性別で見ると、「していない」は女性（22.4%）が男性（14.5%）より7.9ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「週に1回以上」は男性70歳以上（58.0%）で6割近くと高くなっている。一方、「していない」は女性の50代（24.5%）と70歳以上（26.3%）で2割半ばとなっている。

（図6-3-2）